第５学年　国語科学習指導案

時間・場所　　２校時　５年３組教室
学　　級　　５年３組３３名（男子 14 名，女 19 名）
指　導　者　　工　藤　咲　香

１　単元名　　詩の中にこめられているもの
中心学習材　「からたちの花」　（光村図書　５年）
補助学習材　「赤とんぼ」　　三木　露風

２　単元について

児童は，教科書や詩集を通してこれまでに出会った詩において，言葉に即して自分なりの想像をふくらませながら読む経験を積み重ねてきている。また，詩の形式についても学び，連構成のあり方や対句，反復などの技法についての理解を重ねてきている。５年生の一学期には「ふるさと」の詩を学習し，文語調の表現に触れ，場面の様子が表れるように音読を楽しみながら学習した。

本単元で扱う中心学習材「からたちの花」，補助教材「赤とんぼ」は，共に童謡・唱歌としても知られており，児童にもなじみがある詩である。言葉のリズムを大切にして構成された口語定型詩で，語り手の置かれた状況やその情景が描かれており，語り手の思いが直接的に表現される部分は少ないが，情景を綴られた言葉から読み手の体験等と重ね合わせて，語り手の思いを豊かに想像し，味わうことができる詩であると考える。また，反復，繰り返し，連を流れる時間の経過といった優れた表現の工夫を感じ取り，優れた叙述に対する自分の考えをまとめることができる学習材であると考える。

本単元の指導にあたって大切にしたいことは，感覚的な読みに根拠をもたせることである。つまり，言葉や言葉のつながり，反復や繰り返しといった表現技法などを，ただ一方的に教えるだけではなく，読み手にイメージをふくらませるような仕掛けとしてあることに気付かせたい。そして，風景描写から語り手の心の中も想像できるような優れた表現の工夫にも気付かせ，自分の言葉でまとめさせていきたい。なお，現代の児童にとって理解が困難な部分については，客観的な情報を適度に補いながら進めていくことで，詩の世界の理解が深まると考える。

３　単元の目標

○言葉の繰り返しやリズムの調子を楽しみ，音読しようとする。　　【国語への関心・意欲・態度】
◎優れた叙述について，自分の考えをまとめることができる。　　【読むこと　エ】
○反復や繰り返しなどの表現の工夫に気付くことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　イ（ケ）】

４　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○言葉の繰り返しやリズムの調子に気付き，音読しようとしている。	◎詩から思い浮かべた様子，感じたことの根拠を詩の言葉や表現技法にふれて説明している。	○言葉の使い方のよさや，表現技法の効果に気付いている。

５　学習計画（全３時間）

第一次　２つの詩を提示し，単元の学習についての見通しをもつ。（１時間）
第二次　「赤とんぼ」「からたちの花」を読み，優れた叙述について自分の考えをまとめる。（１時間）　本時
第三次　お気に入りの詩を読み，優れた叙述について自分の考えをまとめる。（１時間）

６　本時の指導（　２/３　）

（１）　ねらい　　根拠を明らかにして，優れた叙述についての自分の考えをもつことができる。

（２）　展開

学　習　活　動	学　習　内　容	指導のための工夫　　口評価〈方法〉
㋐ ㋐１　学習課題を把握する。	○口語定型詩とリズム	U口語定型詩のリズムをとらえさせるために，拡大した紙板書を印で区切りながら音読させる。（視覚化）
「赤とんぼ」「からたちの花」の詩には，どんな工夫があるのだろう。		
㋑２　学習課題を解決する。 (1)　分からない言葉について確認する。		・現代の言葉で考えたときに意味が分かりづらい言葉については，客観的な情報を教師が補う。
(2)　どちらか一方の詩を選び，詩で表現されているものについて自分の考えを書き出す。	○現段階の自分の読みを明らかにすること ・登場人物やその行動 ・季節	・自分がそのように感じた根拠はどの部分にあるのかを明らかにしながら話し合わせる。 Uそれぞれのグループの発表が見えるように，付箋を分類・整理しながら可視化を図る。（視覚化・共有化）
㋒ (3)　考えたことをグループで交流する。 ・同じ詩を選んだグループ内での交流 ・違う詩を選んだグループとの交流 (4)　全体で交流する。	○自分の考えを広めたり深めたりすること ・季節 ・登場人物やその行動 ・作者の思い ○表現技法の効果 ・繰り返し→いつも思い出とともにあることを印象付ける ・反復→時間の経過	・個人の読みに帰着できるよう，まとめるのではなく，読みの多様性を大事にしていく。 ・読み手に想像をふくらませる根拠の一つとして表現技法（反復・繰り返し）にふれる。
語り手の思いを伝えるために，言葉・構成・表現技法などの工夫がある。		読自分のもった感想は，詩のどの言葉や工夫からきているのか，表現技法にふれながら，根拠を明確にしてまとめている。 ＜ノート・発言＞
㋓３　本時の学習を振り返る。 ４　次時の学習の見通しをもつ。	○本時の自分の学びを自覚すること ・学習したことのよさ ・友達と交流することのよさ ・自分の学びの高まり	U板書をもとに学習ポイントを整理し，本時の学習を価値付ける。（共有化） ・本時の学習を生かして自分の選んだお気に入りの詩を読んでいくことを伝える。